



閑卷驚奇俠客傳
編貳
三

~ 13
3156
5



13
3156

南卷驚奇俠客傳第二集卷之五
第二集卷之五

開卷驚奇俠客傳第二集卷之五

東都 曲亭主人 編次

源
治

第十五回 濟統歌を遺しと助則隠逸を知る
臙蒂歳と志しと老樹以往を話せ

再説達小六も日屬心と盡さる。看病竟るの甲斐ある。廣喜の呼吸果て噴活
まゝの応せ顔つとら目感と嘆嘆不堪まのまゝ人の命の長短は過世小京たは
定數ありとも。幸い小老を良醫小遇ハ齡を延ることもあらんを折も折し重なる
這御吉野の旅宿おれハ岐扁の術小置くて霜露の病病も後終小救かたはる
まを悔て及ぬと多ら。俺料も目四郎の補助ふも安同們も思ひの隨小鼓も果せし
秋ひと云々と述る聞る又俺と與小自殺とら那俠者の落胤も少年を久後ま
も身小從へてこそ苦樂を共侶小せまるとおく末のけふもいふと飛會の鴈の聲

東都傳第二集卷之五

出踏ふ死別を悲しけれ何れせん。頭を傾けし文を尋思の胸に憂
 胸の敷を遣るかまらけ。折る小六を懐より。香氣忽地顔都と熏る初とありけり。
 噫忘れろととあれ。比那仙嬢の夢中授けぬ。仙丹の覚る後。懐に在り
 ける。徳而歌舎ふか。束の黄氏。小吉の病着劇。ええ。驚愕。古
 紛れて那仙丹。鈍り。や久く。思ひ。外。小吉。徴め。珠玉。忘れ。尾。破。愛
 去和氣丹波。訪ぎ。博。乱湯。と市。買。田。合。中。似。け。然。る。も。那。仙。丹。今
 ち。失。せ。あ。の。口。の。残。香。の。独。語。の。懐。と。那。這。と。撞。撈。の。幸。い。く。仙
 丹。の。折。紙。の。包。一。俵。小。て。落。て。左。の。袂。在。り。し。稍。會。出。し。ち。戴。せ。原。這。茶。の。三。粒。を
 せ。し。の。一。粒。の。俺。夢。中。の。腹。試。ま。り。し。記。憶。日。屬。十。倍。あ。り。と。受。中。似。せ。甚。麼
 ち。あ。と。度。吉。の。病。着。用。ふ。と。し。と。是。他。が。命。運。の。既。不。盡。る。兆。の。後。遊。莫。枯。さ
 苗。も。活。る。雨。露。の。更。あ。の。要。る。と。右。と。伸。し。且。度。吉。が。胸。膈。頭。と。那。這。と。拍

試る。全身既。小。胸。冷。れ。も。中。腕。の。不。温。之。然。い。て。遠。く。身。起。り。提。桶。を
 茶。碗。の。汲。り。火。を。鑽。被。て。然。而。那。仙。丹。一。粒。と。撮。合。の。重。要。時。念。ん。て。度。吉。が。口。中。小
 の。ろ。共。伏。込。入。れ。て。の。吭。拊。胸。と。捺。す。茶。の。胃。中。小。届。り。現。死。と。起。し。生。不。回。け。神
 や。く。汗。の。心。地。爽。然。然。る。小。六。今。這。仙。丹。奇。効。と。感。ず。不。勝。の。飲。む。正。音。勤
 汗。出。り。心。地。爽。然。然。る。小。六。今。這。仙。丹。奇。効。と。感。ず。不。勝。の。飲。む。正。音。勤
 正。音。勤。而。粥。と。造。て。薦。め。度。吉。の。二。碗。吸。り。て。の。宵。の。熟。睡。と。た。り。け。詰。目。不。り。で。は
 ち。あ。の。病。着。痊。り。果。て。小。六。對。して。看。病。の。飲。む。と。演。る。と。登。時。小。六。を。度。吉。那。仙。丹。の
 奇。特。の。顔。末。の。日。獨。後。醍。醐。帝。の。山。陵。詰。折。憶。も。假。寐。も。夢。中。小。女。仙。の
 招。れ。て。告。示。され。言。の。下。と。箇。様。々。と。報。知。り。し。那。折。の。授。け。る。仙。丹。の。三。粒。を。一
 一。粒。の。女。仙。の。薦。め。の。儘。一。七。夢。中。小。喫。り。餘。の。三。粒。の。後。々。必。用。る。と。あ。ん。と。い。い。ま
 ち。あ。の。病。着。痊。り。果。て。小。六。對。して。看。病。の。飲。む。と。演。る。と。登。時。小。六。を。度。吉。那。仙。丹。の
 奇。特。の。顔。末。の。日。獨。後。醍。醐。帝。の。山。陵。詰。折。憶。も。假。寐。も。夢。中。小。女。仙。の
 招。れ。て。告。示。され。言。の。下。と。箇。様。々。と。報。知。り。し。那。折。の。授。け。る。仙。丹。の。三。粒。を。一
 一。粒。の。女。仙。の。薦。め。の。儘。一。七。夢。中。小。喫。り。餘。の。三。粒。の。後。々。必。用。る。と。あ。ん。と。い。い。ま

よも田中の中届れ。這回陽の秋ひあり願ふ人の病厄も亦是時中百數ありて死に至るもの
 活るものも必速速あるらん然る初より那仙丹を用ひて。最後用ひて即效あり。
 是も亦神仙嬢の逆測らせぬ。方便の飲と町寧有はるよりと説示せば庶吉吉之
 感佩をて席を避け額をた小人何もの過世ありて後半月ありて大病と看とれりて
 の言わざる仙某の奇效ありて再生する身の秋ひは皆是君の徳に憑る。二世の洪福
 何の秋られの優とい死仰げ高は今番の御恩の吉野の山の數あるをいそ大馬のち
 らと竭して報ひあらんと念ふ。他一更きいそ谷と見よりのりまき小六が奥心を
 いく。最老実く仕けり既して春もよき二月の初漸ある。か山櫻威初初。日毎小
 とさえいとあり。その夜とく。さうわ。準備と更ふてとて庶吉吉耳く。鶴高庵夢小
 登山の人より登時小六を起すの準備と更ふてとて庶吉吉耳く。鶴高庵夢小
 又えぬ仙嬢の示現ありて先帝の大御靈。這吉野の山陵あり。一はまきとつ
 よも快這山と立出。亦復他御遊歴せんと。いひける。仙嬢の然る。意をそそくも。

必障りのありて。開花時候より。示され。果て錯い。折去向と問ふ。

老神風の伊勢小赴け。那里の今。南朝の北畠氏。國司より。海心。とある。

る。故人の遇んと。誨め。い。と。あり。加旃去歳の夏。庵養育の義父野上大人。

実父目四郎。密談の折。竊聞たり。庵身。延と遣え。のれ。去向。伊勢。

と云。恰と。今。ゆ。他。所。を。求。む。と。云。那。地。も。く。と。云。あ。る。ゆ。さ。う。藏。王。堂。寺。の。坊。

主。小。歌。舎。と。返。す。その。詰。日。庶。吉。と。俱。と。前。路。の。樓。開。く。初。瀬。越。と。遠。く。旅。

あれ。と。三。日。這。首。の。立。上。り。那。首。を。遊。び。て。第。四。日。の。未。牌。時。候。伊。勢。路。を。此。と。出。坂。の。

麓。の。黒。の。石。名。原。う。ち。踰。来。て。も。未。暮。ぬ。日。永。に。甲。斐。と。飼。阪。の。里。稍。盡。処。を。過。り。程。

た。一。座。の。佛。堂。あり。けり。主。僕。一。枚。美。り。と。ま。れ。が。靈。驗。馬。頭。堂。と。寫。し。て。扇。

掲。げ。て。當。下。小。六。を。庶。吉。と。俱。の。觀。世。音。を。伏。拜。と。退。く。と。は。か。ま。の。堂。の。佛。

池。あり。池。の。頭。の。樓。が。下。の。葎。簀。を。楨。耳。する。茶。店。あり。て。這。店。鋪。と。成。一。個。の。老。者。

柱の倚りて打馳りし。小六と這里まで多氣の城下の路程も尋ねて北自田家の動静も。問ふと此の卒懇んとのみ。登見の尻をうち横置の庶吉も下坐る。登見の寄る休。息を登時翁の客と相て火を吹起し茶を奉復して薦めて去向を問ふ。這頭は通く北自田泰親の地あり。多氣の城の路の程一里半とゆえり。柳北自田三位右衛門督源。源氏満泰卿の南朝棟梁の忠臣ありける。中院一品入道親房の曾孫也。三位右衛門督兼伊勢守頭泰親の嫡子。乃祖北自田親房公の學和漢を貫く。忠誠諸葛武侯の風あり。息女の後村上天皇の中宮の立あり。朝野の尊敬大なる。ねと哺と吐て士を降ら。髪を握りて客を迎下との。周公自異る。君補佐と私を。戦馬の向ふ年を歴て勲功。多くありければ。正平七年春正月准后の宣下。蒙りあり。是より先與國元年の常陸の。小田の城在して神皇正統紀五卷を撰。その次の年春二月小職原抄巻を編述あり。之未代の龜鑑とを學術高明推て知。後醍醐天皇の元徳二年の病あり。剃髪

長氣の原
多氣郡
あり和名
鈔まて
同名異地

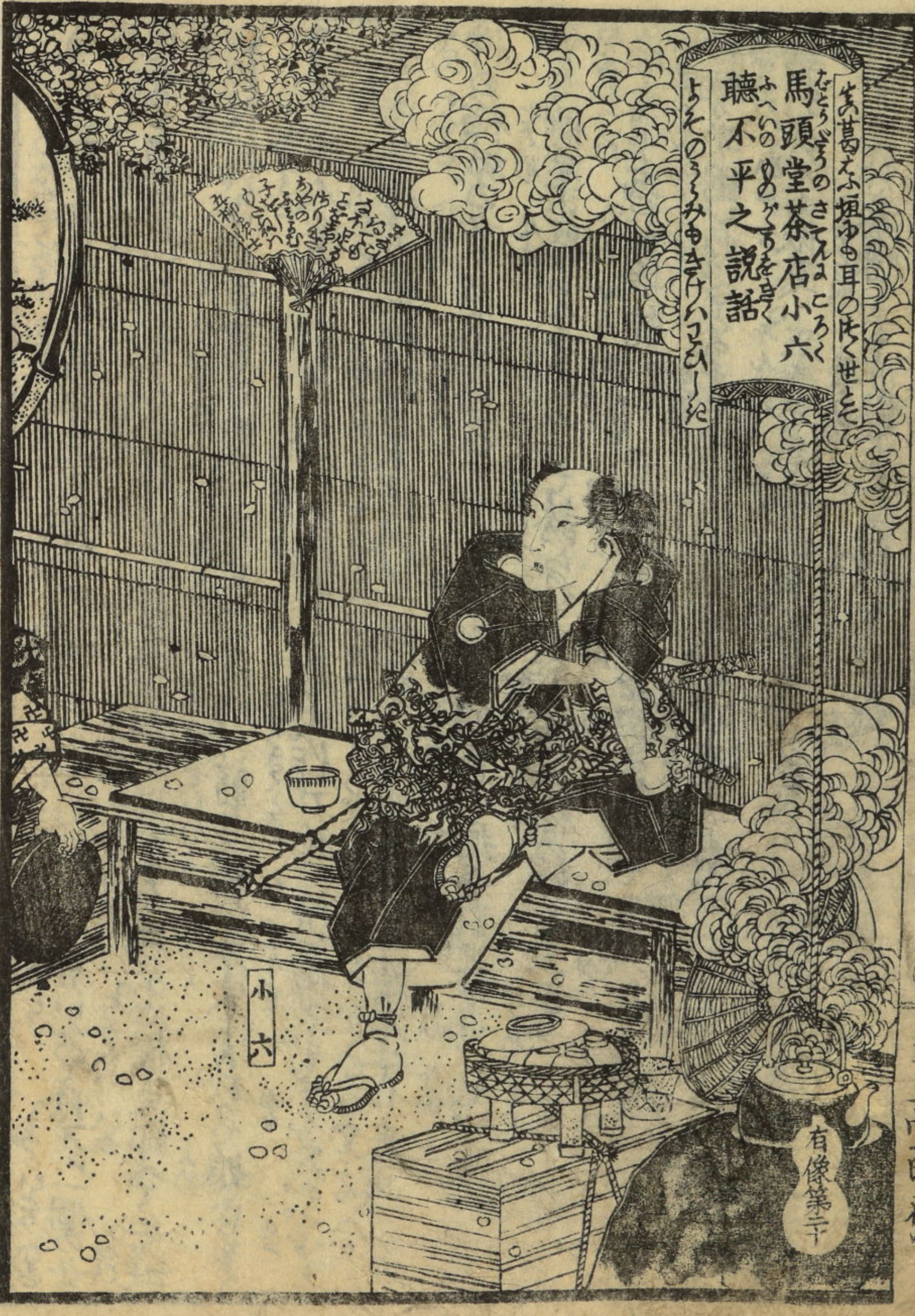
あて法名宗元とせし。是より二十許餘を経て後村上天皇の正平十四年の薨る。享年六十七歳。世に惜れる。精忠は即義の獨這殿の。見孫各々朝家の與。死力を盡さばの。嫡子中納言頭家卿。足利氏と數戰の後堺の浦の役。又二あり。竟陣歿あり。時延元三年。父親房公の舎弟。權中納言頭時卿。并小五男太宰大貳信親卿。正平十二年秋七月筑石の戦ひ。陣歿の。えあり。時の頭時二十九歳。信親の二十八歳。中親房公の三男右大臣頭能公。伊勢州一志郡多氣の城在。多氣の御所と稱せ。頭能の嫡子左中将頭泰。卿。正平二十一年。伊勢國司補せられ。時後三位右衛門督天授二年。權中納言弘和二年。從二位の亞相。昇進あり。元中元年夏四月。四十五歳。薨る。而頭泰の嫡男親能の時。至て勢ひも衰へ。伊勢。大和。郡。伊賀。一郡。約四個國十八郡を管領して。その身の多氣の城在。居城とす。嫡子頭雅。大

河内の城小在。舎弟俊泰の垣内小在城。這宅阿射賀王九関上野神戸の城中。関の
 一黨神戸峯鹿伏免木造川北柘植山路阿保の二族老黨譜弟恩顧の志行
 り。故國司顯泰卿の時より。壁唐の節度使の如く。実中南朝一方の捍城也。あ
 ければ。元中九年の冬。南北両朝御合體の折前將軍相國入道。足利。北畠との宜く
 沙汰。今も伊勢の國司より。親能も亦その恩と感して。太上皇。後龜の太子。と
 今上。後小松帝。の東宮小立。まゝとせんと。誓言。約束あれ。足利家の恨と。迷志。と。萬葉を
 意。違ふ。と。町寧。のせ。れ。義満も亦。歎。び。て。好。と。結。ん。ぶ。諱。の。一。字。或。授
 け。け。の。あ。れ。よ。親。能。の。名。と。滿。泰。と。改。め。て。小。倉。宮。後。龜。山。天。皇。の。御。位。小。即。あ。ん。日。東。取
 る。も。等。よ。外。他。支。も。多。く。也。年。来。と。過。さ。れ。る。間。話。休。題。却。説。小。六。を。飼。阪。の。里。耕
 畫。処。る。馬。頭。堂。の。境。内。の。煎。茶。店。小。休。て。茶。店。の。翁。小。這。処。より。多。氣。の。城。へ。路。程
 と。那。里。の。容。子。と。問。け。る。翁。答。て。滿。泰。卿。の。阿。射。賀。を。居。城。小。あ。ん。と。去。歲。より。城

普請の御沙汰あれども。今も多氣小御座。又も子伊勢の御曹司顯雅君の大河内の
 城小在。其約莫。這雨城下の敏。目。昔。あ。ん。と。け。の。小。六。を。あ。ん。と。を。多。く。傍。の。柱。を
 瞻仰。小。柱。小。箇。の。針。を。打。て。舊。を。扇。と。掛。る。目。取。美。の。迹。を。公。子。び。ぬ。も
 る。足。る。と。知。る。の。親。の。書。と。む。子。と。り。あ。ん。五。柳。隱。士。と。あ。の。け。れ。が。愛。と。連。の。小
 う。の。吟。也。あ。ん。と。博。士。の。歌。も。一。萬。葉。集。第。五。卷。の。山。上。憶。良。の。歌。の。銀。も。あ。る
 終。の。玉。も。何。せん。あ。ん。と。あ。ん。と。た。り。子。小。あ。ん。と。あ。ん。と。と。詠。へ。と。取。れ。る。憶。良。が。歌。の。子。宝
 と。の。世。の。常。言。の。起。本。あ。ん。と。又。這。歌。の。情。異。子。の。世。の。人。の。皆。奉。で。そ。か。中。小。不。肖。の
 賢。も。極。て。あ。ん。と。父。賢。小。子。も。賢。も。親。の。書。と。よ。く。讀。ん。と。紹。ぐ。と
 あ。ん。と。あ。ん。と。の。宝。と。一。と。詠。へ。則。述。懐。也。高。情。も。知。ら。れ。る。這。詠。詠。家。の
 何。処。の。人。と。問。へ。翁。の。真。実。也。原。來。あ。ん。と。の。歌。と。好。と。詠。の。末。を。あ。ん。と。這。詠。詠。の
 歌。主。の。う。あ。ん。と。と。哀。れ。る。話。説。の。小。去。向。と。急。だ。い。の。話。一。稟。さ。ん。あ。ん。と。あ。ん。と。の。軀。

過のめん。這里よりいふと、約十町をりる。字五柳と喚做。瘦村の稻城左膳守延との。学者氣質の退禄人。原の國司の御家臣。俸禄三百貫。成賜。南朝北朝。和睦あり。比國司の京都前將軍家の諱の一字を賜。満泰と改め。守延主酷く諫め。その諷。と稟。朋輩の諛言。野心の。え。遂に那身と禁錮せられ。百日あまの不及。野心の。宥。身。暇。賜。徳而稻城守延主。那五柳の退隠。字と文作と改め。其頭の里の総角の讀書の蹟。教。十稔許。送。文学武藝大か。京鎌倉。仕官。未。唐山司馬晋の國司の譜。第忠を盡して用ひられ。冤屈。二君。柳隱士と唱。唐山司馬晋の。不清會を樂。村の字と家號。取。五柳隱士と唱。唐山司馬晋の時陶淵明。賢人の。五株の柳。則五柳先生。稱。故事。縁。

あると。有一長老の宣。宣。性。過。男。女。見。名。何。今。十六。最。美。標。刺。の。枝。い。走。書。亦。愛。二。親。孝。順。筋。目。好。豪。家。の。娘。ほ。と。氷。人。を。我。名。飲。文。作。刀。袷。の。塔。を。擇。木。造。木。子。介。泰。勝。主。が。た。の。徳。り。程。國。司。の。權。臣。木。造。内。匠。親。政。大。人。の。嫡。子。木。造。木。子。介。泰。勝。主。が。件。の。稻。城。の。女。見。の。美。女。の。好。色。の。癖。有。る。女。見。を。售。時。勢。の。い。を。側。室。不。娶。り。と。利。を。と。誘。れ。文。作。刀。袷。の。女。見。を。售。時。勢。の。女。見。を。非。除。館。の。御。誕。を。女。見。を。徵。ま。る。倚。身。俱。伊。勢。半。園。と。賜。と。正。妻。と。も。婚。姻。を。允。ま。る。と。辭。を。放。ち。教。團。の。引。き。け。れ。泰。勝。主。も。亦。怒。り。その。誤。り。を。術。の。必。し。を。罵。り。狂。ひ。



生草大相ゆの耳の片くせと
 ならうのさへんこころ
 馬頭堂茶店小六
 ふののさへんこころ
 聴不平之説話
 ちとのさへんこころ

去とむとの声と密にうら。おと内所のみ。然る腹黒に主ぬれ腹心若黨
 幾多不機密と示一隙と張ひ大作刀袷の外中折天庭小女見と奪辱らる宿
 所小敷一措きよ。あのさき多きゆえ。大作刀袷の怨み堪む次の日又氣赴死
 國司小愁訴直せ。かゝ然と證據をえられ木造主の冤枉を頼陳と物
 とせ老翁の十二の權臣の姉御の館の側室にて引板屋殿と喚れ。這内
 外の幫助もあらん國司の薄情や感せめて。證據をえられ。御信用より。か
 有司違訴人論と訟状を返せと。この故に大作刀袷の憤り胸に満てその冤を叫
 べ。支聴まねり甲斐ある。所詮大河内へ推参と。愁訴のうと御曹司。歎
 息まき萬の七宜死御沙汰のあらん。宿所へ立ち。亦大河内へ。さき
 その臆昏の正也あらん。樞反山の頭を山賊と。所為る。大作家刀袷。獵
 箭胸臆を射徹されて。軀をくまらる。その多氣のゆえ。五柳村へ下知ある。村

長門を召よせられ尸骸と遞与。このけれ五柳村の昇りて返して。送葬儀のおと。
 執柄の支み。痛す。主の内儀。最愛の獨女の奪略。良人の横死。
 仇も知る。泣明。泣暮と。飯も薦ま。夜の目も合。十日と。浩嘆。疲勞。病
 臥。在。ま。人の噂。お。却。這。扇。の。大。作。刀。袷。の。這。里。の。觀。世。音。と。信。り。ま。り。ま。
 折々。ま。の。の。每。の。咱。們。が。店。舗。の。立。ち。茶。と。喫。て。浮。世。雜。談。と。所。も。あ。つ。話。も。あ。て。
 樂。ま。せ。れ。が。の。日。是。を。俺。店。舗。の。ち。ま。ま。還。り。の。日。の。ま。あ。り。け。ん。
 件。の。横。難。起。り。か。さ。て。末。の。暇。と。あ。る。黄。泉。の。客。と。あ。り。る。主。の。記。念。の。那。
 内。儀。の。参。詣。あ。つ。折。返。し。ま。ぬ。せ。ん。と。あ。り。の。う。た。れ。ぬ。柱。の。横。に。措。け。死。体。は。
 情。思。い。の。心。長。困。死。物。を。小。六。を。ゆ。憶。も。巻。を。捺。り。齒。を。切り。て。世。中。を。又。听。か。ぬ。
 堪。不。平。の。の。の。あ。り。け。り。と。敦。圍。の。又。その。扇。を。ら。く。ら。う。ち。吟。つ。連。の。嘆。息。を。ら。
 る。度。吉。も。這。長。談。を。穿。果。る。折。つ。死。け。ん。昔。春。初。る。日。の。空。を。瞻。め。り。多。氣。ま。七。里。半。と。る。

いけの前路の道遠く卒とよませぬぞ。と小六を領する。茶店の翁が稲城の宿
 所を極め立ち折る。度吉のちろゆる。茶價を翁に還しけり。却説小六は遠路の
 茶店をゆく程心はちろゆる。度吉の耳に示さる。是より言を氣の歇店を五柳村
 立ち。那這と尋する。最も老る玉株の柳を柱に取。樹垣を締遠く内を避
 塵の茅屋あり。又主株の大楊柳の背向のる。もそそ。是るべし。度吉は折戸を敲
 ち。稲城氏の這許と。俺們的他郷より来る。武夫でい。同試んと。思ふ。故意
 して。用て。容れぬ。と。声高。高。の。喉門へ。内より。幽け。老婦の。声。と。稲城の。宿所。を
 這里。き。れ。も。の。日。主人。の。世。と。去。り。留守。は。俺。身。の。病。着。小。因。籠。ら。れ。て。立。由。懶。惰。の。宿
 所。を。投。め。ぬ。ふ。と。然。る。折。る。れ。美。引。さ。か。り。逆。旅。王。人。の。あ。か。し。と。推。辭。む。小。六。を。推。返
 して。その。美。の。豫。美。知。宿。と。も。ん。と。あ。か。し。を。今。愛。の。う。ふ。就。く。い。さ。ち。ろ。ふ。か。り。と。思。ふ
 よ。ま。の。と。ち。敬。馬。も。あ。か。し。の。病。苦。と。心。び。對。面。わ。が。る。折。意。衷。と。嚴。重。と。思。ふ

小六老婦のうらも措き。今も。と。答。く。身。を。起。し。折。戸。を
 推。開。し。相。ま。小。六。が。人。骨。相。の。美。し。通。旅。の。武。士。と。あ。か。し。の。似。年。弱。く。あ。か。し。の
 音。声。の。疑。ひ。も。東。國。人。と。思。ふ。俱。し。な。猴。子。も。趣。あ。か。し。の。年。で。あ。り。け。れ。ば。原。來。由
 あり。又。那。寛。家。の。間。諜。者。で。い。あ。か。し。と。猜。し。卒。這。方。と。先。小。六。母。屋。を。伴
 ひ。茶。と。看。て。先。の。來。意。と。諮。け。り。登。時。小。六。は。這。老。婦。と。主。人。稻。城。守。延。の。妻。房
 あり。と。あ。か。し。も。叮。寧。の。時。候。を。舒。く。を。病。着。と。向。尉。の。徐。小。頭。と。回。し。相。ま。這
 家。舊。え。の。坐。席。の。二。間。款。四。間。の。主。人。の。身。ま。ら。た。り。と。り。小。六。の。童。の。書。机
 あり。と。あ。か。し。の。家。々。の。と。去。る。め。摺。滾。し。る。目。黒。の。那。這。席。薦。を。塗。し。と。度。吉。の
 る。あ。か。し。の。中。は。唐。机。と。和。漢。の。書。策。と。積。登。た。る。頭。の。書。箱。の。柱。の。横。に
 鞭。の。わ。り。漆。主。鞋。の。稜。剥。る。片。鈎。の。鎗。十。條。坐。席。の。美。塵。を。た。た。か。り。茶。店。の。翁
 噂。錯。い。と。文。の。武。の。一。隱。士。と。思。ふ。惜。か。り。け。餘。波。の。衣。れ。白。木。の。木。ま

其のそとあり。あつ。こつてみまをた。さる。まづ。あつ。うらむ。けつ。の。とも。なれ。うらむ。さき。清白信士と寫されし小机の安措。花の木の常香盆の煙と共雲を穿て然。と。と想像る小六を老婦まらち對して某の東國の處士達小六を喚做さるる。司の舊縁あれ安否と伺い京入與。今番這地來られども。多き氣の赴きけり。人の噂よりもて文作主人と。その退隱の緯の顛末今愛の。今番の横難。王の横難のまても大なる。少知。其偏愚の性と。不平の度と。怒氣胸の満。勝らま。然。親疎の差別。その寃と伸恥と。雪めて人の患と。拂ん。年弱ければ。その美を。試さ。安所の横難。某國司の舊縁あり。對面の折時。宜ふより。訴京。今愛と。合復。去。秋。是も亦知。く。ほ。一。家。推。參。致。一。た。寒。あ。れ。の。の。あ。や。と。回。て。老。婦。の。感。涙。の。進。む。と。推。拭。ひ。て。人。の。凋。落。の。折。々。の。親。族。故。舊。も。疎。く。る。ゆ。総。て。浮。世。の。習。俗。の。尚。故。弱。は。方。さ。る。の。人。の。噂。と。身。の。播。て。の。親。切。る。を。計。い。せ。有。か。親。子。の。幸。ひ。の。上。

そのそとあり。あつ。こつてみまをた。さる。まづ。あつ。うらむ。けつ。の。とも。なれ。うらむ。さき。清白信士と寫されし小机の安措。花の木の常香盆の煙と共雲を穿て然。と。と想像る小六を老婦まらち對して某の東國の處士達小六を喚做さるる。司の舊縁あれ安否と伺い京入與。今番這地來られども。多き氣の赴きけり。人の噂よりもて文作主人と。その退隱の緯の顛末今愛の。今番の横難。王の横難のまても大なる。少知。其偏愚の性と。不平の度と。怒氣胸の満。勝らま。然。親疎の差別。その寃と伸恥と。雪めて人の患と。拂ん。年弱ければ。その美を。試さ。安所の横難。某國司の舊縁あり。對面の折時。宜ふより。訴京。今愛と。合復。去。秋。是も亦知。く。ほ。一。家。推。參。致。一。た。寒。あ。れ。の。の。あ。や。と。回。て。老。婦。の。感。涙。の。進。む。と。推。拭。ひ。て。人。の。凋。落。の。折。々。の。親。族。故。舊。も。疎。く。る。ゆ。総。て。浮。世。の。習。俗。の。尚。故。弱。は。方。さ。る。の。人。の。噂。と。身。の。播。て。の。親。切。る。を。計。い。せ。有。か。親。子。の。幸。ひ。の。上。そのそとあり。あつ。こつてみまをた。さる。まづ。あつ。うらむ。けつ。の。とも。なれ。うらむ。さき。清白信士と寫されし小机の安措。花の木の常香盆の煙と共雲を穿て然。と。と想像る小六を老婦まらち對して某の東國の處士達小六を喚做さるる。司の舊縁あれ安否と伺い京入與。今番這地來られども。多き氣の赴きけり。人の噂よりもて文作主人と。その退隱の緯の顛末今愛の。今番の横難。王の横難のまても大なる。少知。其偏愚の性と。不平の度と。怒氣胸の満。勝らま。然。親疎の差別。その寃と伸恥と。雪めて人の患と。拂ん。年弱ければ。その美を。試さ。安所の横難。某國司の舊縁あり。對面の折時。宜ふより。訴京。今愛と。合復。去。秋。是も亦知。く。ほ。一。家。推。參。致。一。た。寒。あ。れ。の。の。あ。や。と。回。て。老。婦。の。感。涙。の。進。む。と。推。拭。ひ。て。人。の。凋。落。の。折。々。の。親。族。故。舊。も。疎。く。る。ゆ。総。て。浮。世。の。習。俗。の。尚。故。弱。は。方。さ。る。の。人。の。噂。と。身。の。播。て。の。親。切。る。を。計。い。せ。有。か。親。子。の。幸。ひ。の。上。そのそとあり。あつ。こつてみまをた。さる。まづ。あつ。うらむ。けつ。の。とも。なれ。うらむ。さき。清白信士と寫されし小机の安措。花の木の常香盆の煙と共雲を穿て然。と。と想像る小六を老婦まらち對して某の東國の處士達小六を喚做さるる。司の舊縁あれ安否と伺い京入與。今番這地來られども。多き氣の赴きけり。人の噂よりもて文作主人と。その退隱の緯の顛末今愛の。今番の横難。王の横難のまても大なる。少知。其偏愚の性と。不平の度と。怒氣胸の満。勝らま。然。親疎の差別。その寃と伸恥と。雪めて人の患と。拂ん。年弱ければ。その美を。試さ。安所の横難。某國司の舊縁あり。對面の折時。宜ふより。訴京。今愛と。合復。去。秋。是も亦知。く。ほ。一。家。推。參。致。一。た。寒。あ。れ。の。の。あ。や。と。回。て。老。婦。の。感。涙。の。進。む。と。推。拭。ひ。て。人。の。凋。落。の。折。々。の。親。族。故。舊。も。疎。く。る。ゆ。総。て。浮。世。の。習。俗。の。尚。故。弱。は。方。さ。る。の。人。の。噂。と。身。の。播。て。の。親。切。る。を。計。い。せ。有。か。親。子。の。幸。ひ。の。上。

孝のついでに過一のせられしと歎くと小六も慰難て皇和も漢土も今も昔も
死と怕まきしと標を守り身と潔くせし烈女節婦の戦世のまらぬ命の
死那好色の毎の従美女子の強顔とも心長閑く哄誘きて従へんと欲するめその
美の心安はべし。就て其言を氣にお到りて國司に見参見折かよと許稟まとも今愛の名
三年さ知らざる不便のい人具不知のい。と向へ老樹の點頭て宜し趣あるゆゆのせ見の
今茲十八歳と志永二年乙亥の秋七月七日の誕生なり。名は信夫と喚做せしめよ
小六も眉根を頻單めて沈吟する正半响をる。後うす頭と拾げく。そと又奇しきも
外某も亦義妹の名と信夫と喚做するあり。便是某と同庚なり。志永二年乙亥の秋七
月七日の生れり。脐帯裏にお寫着あり。とそ母親の折々いひも出し。俺小耳は底を留
めて今不忘ま。あるゆゆの女弟の某と俱に陸奥あり。時七才なるは秋九月城隍神
會と親んとて平の肉經紀の櫻れけん。往方も知るるゆゆの他三親甲乙は原

某が母もれも養育の恩深う。私の年来養父親母と稱す。骨肉の異なる
お夫婦忠誠艱苦の中果敢るや。いと惜しめ某諸國と履歷の折信夫が生
死存亡のそ尋極人とていひの久しき。最も先礼するところ。おん母は令愛信夫
と。の。う。ま。あ。や。こ。の。ま。あ。い。ま。む。ふ。
刀袷の實の親子で。いと老樹の胸と淡く。と。む。く。と。む。り。お。姑。且。心。難。く。も。
涙吐む目を屢瞬に。訴りあり。理りえ。今や。隱。き。も。ゆ。き。既。に。推。量。せ。れ。ど。信。
夫の實の女兒あり。俺亡夫のゆゆも。拾ひ合ひつ。養ひし。と。そ。乙。亥。年。來。あ。る。ゆ。ゆ。
故の佳々之箇様々。と。己。往。の。物。語。も。及。び。け。縁。由。と。原。る。時。は。志。永。二。年。の。秋。九。月。老。
樹の良人守延の。有。北。白。田。仕。一。か。の。比。陸。奥。の。宝。川。使。と。奉。せ。り。あ。る。ゆ。ゆ。山。頭。も。う。ち。
踰。來。ぬ。越。後。州。古。志。郡。不。毛。山。の。林。鹿。路。ゆ。ゆ。と。そ。れ。が。歳。六。七。許。る。一。個。の。ゆ。ゆ。
何ゆゆあ。ん。最。の。老。る。樹。杪。お。樹。本。登。り。在。り。ける。ゆ。ゆ。樹。下。の。懸。崖。も。一。個。の。ゆ。ゆ。
うち。瞻。仰。す。降。よ。くと。喚。ひ。り。連。の。招。は。る。と。せ。一。程。お。件。の。女。子。の。守。延。の。行。轡。ふ。

うち乗りて。鎗鐵櫃苛め。伴當十名許を宿て。近着來ぬ。直下へ。忽地。聲を
 立て。谷より。刀禰們助けた。たゞ。俺身。その。刀人。小拐。され。る。の。ど。か。救。せ。ぬ。と。叫。び。る。
 登時。稻城。守。延。の。之。轎。子。と。駐。ま。り。原。來。其。奴。の。癖。者。り。捕。捕。下。り。と。烈。し。き
 指揮。の。美。り。ぬ。と。若。黨。中。間。走。り。蒐。り。那。癖。者。と。推。捕。稠。ん。と。一。程。刀。人。を
 うち。敬。馬。な。ら。ば。此。の。怯。ぬ。面。色。と。刀。禰。們。卒。小。ま。ぬ。る。那。女。子。の。俺。姪。の。ぬ。は
 比。より。心。乱。ま。り。筋。力。死。と。口。走。ま。り。療。治。の。為。の。醫。師。許。ね。く。由。ん。と。格。駝
 後。這。樹。下。を。過。り。折。姪。女。の。樹。枝。の。を。掛。り。背。を。離。き。杪。の。登。り。て。喚。ぶ。を
 下。り。困。ど。り。恚。り。情。由。り。ひ。び。と。頼。む。を。女。子。の。推。林。下。り。て。刀。禰。們。の。刀。人。に
 何。と。と。る。所。の。ひ。を。俺。身。の。さ。う。故。る。く。這。樹。の。上。の。登。ら。ぬ。願。ひ。の。救。り。を。受。か。と
 哀。を。請。う。て。已。さ。り。け。ぬ。その。間。の。守。延。の。旅。轎。より。立。出。り。兵。們。其。奴。と。走。り。ま。り。剛
 才。這。那。の。言。語。心。對。竊。の。虚。実。を。猜。ま。る。女。子。の。愁。訴。の。実。小。く。疑。ひ。を。其

奴。あり。猶豫。ま。ほ。り。欲。と。敷。圍。る。再。度。の。指。揮。の。性。急。雄。の。若。黨。二。名。向。と
 応。り。走。蒐。り。刀。人。の。利。を。と。合。ん。と。競。や。る。又。這。癖。の。勢。ひ。を。免。れ。か。と。と。ど。い
 けん。刀。人。を。吐。嗟。と。叫。び。掻。潜。り。突。退。り。其。地。の。逃。ま。り。と。伴。當。們。の。足。脱。下
 と。く。大。家。齊。一。趕。ふ。程。小。這。里。の。山。脚。の。十。條。路。を。右。も。や。樹。柵。際。も。り。左
 へ。千。仞。の。谷。を。り。け。れ。刀。人。を。喘。々。趕。登。さ。り。兩。後。の。山。の。葛。藤。小。足。を。藤。ま。り
 身。を。横。容。小。谷。底。へ。忽。地。墮。と。滾。落。り。生。死。も。知。ら。ぬ。小。け。り。是。の。より。伴。當。們。の
 故。の。所。か。ら。來。り。然。而。守。延。の。那。癖。者。が。十。仞。の。谷。へ。滾。落。さ。る。為。の。體。を。載
 せ。守。延。听。り。領。え。然。も。て。あ。ら。め。回。む。と。那。身。小。惡。喜。あ。れ。て。逃。る。深。谷。へ。陷
 正。た。れ。その。惡。あ。ら。ぬ。眞。罰。や。り。品。小。撲。骨。碎。け。り。必。即。死。ま。る。の。の。然。し。も
 這。里。の。人。家。遠。く。樵。夫。の。外。小。人。の。往。還。の。早。多。ん。今。那。女。子。を。救。む。と。欲
 泥。を。送。ま。り。不。便。の。ゆ。ゑ。の。必。へ。と。の。八。尺。も。足。掛。も。る。巨。樹。の。杪。小。樵。登。ら。ん



十三



有後第廿

正容易くも。什麼も死と問試る。小兩具は鹿と荷擔る奴隷の故郷の伊賀の
 山里あり。樵薪を生活小たたるあり。在下小仰付られる。立地小那樹小登りて女の
 子と扶却去べ。との小守延然びて。そを幸ひる。正をか。落さぬ。小快せ。とのそ
 かり女の子の中。縛結々と喚り示。主僕樹杪を向上。余程小件の奴
 隷。細引の麻索を腰小挟。三輪を抱え。攀登ると逸速。瞬間樹杪に到て。
 女の子の腰小麻索を結着。下枝ま。小腋小抱。下。其首より徐小
 も縁卸をを下る。若黨受合。て。抱。守延の身邊へ。扛居け。
 女の子の既小極ひをゆる。遠く来。ける。身の小所縁心のと。只。潜然と
 泣。守延相。慰め。那癖者の做。趣女の子の親の名里の名。叮寧。輪
 小。女の子の。泣。と。飲。親里の陸奥。信夫郡の片頭。渡瀬の
 浪人某甲の女見。今。七歳の。名。信夫と喚。

皇の神會の折四鄰の女の子小誘引れ。漫行を。小那。人。擧。遠く
 這里。俱。其。通途。幾番。脱去。思。昏。甘。駝。以。亦
 然。被。推。並。此。由。便。夜。亦
 側。臥。た。せ。術。あ。泣。毎。那。人。尉。左。右。這。里。來
 て。親。里。へ。還。り。か。う。俺。越。後。新。瀧。二。國。湊。へ。由。た。て。愛。家。奉
 公。その。折。俺。們。を。小。父。公。の。ひ。那。里。へ。大。皆。富。饒。甘。好。東。西。多。あり。
 美。衣。を。被。せ。最。艶。妖。諸。姉。妹。と。共。侶。日。暮。さ。の。憂。を。轉。し。
 飲。ひ。と。做。を。樂。その。形。を。泣。く。飲。勿。泣。と。問。時。り。賺。し。餅。を
 買。取。せ。る。ど。け。の。越。路。入。る。山。又。山。の。雲。分。け。踏。々。本。と。林。路
 去。向。小。老。山。樫。あり。俺。身。の。山。路。小。勞。れ。那。人。由。駝。疲。勞。を。俺。を
 肩。小。無。事。既。小。件。の。樹。下。過。え。と。せ。程。小。東。差。大。枝。を。向。の。遠

かきと抗伸き携らう。そのやわえ携りて。身も那樹梢に脱れる。人の頼
助も等んぞ。と云ひつゝ。わづらひ程の料る。差の至る。樹下を過れる。折る那大枝の
面もと拭たる勢ひ。桃合の如く肩ととる。憶ぎ樹上を返登され。辛く毒
も脱とく。又との上る大枝。携りて。妙の登り。登時。人驚。謀て。或
罵り。或の賺し。と攀登らんと。それをも下より。枝の届る。足を掛く。登り節。由
也。困下果。目成ら。傍折ら。刀衾の。山路を。ち論て。来ませ。是
俺。天の助け。と声ゆり。立。救ひ。と求め。り。あ。ちの措れ。を。那。人。と。深。谷。の。底。
遅。遅。と。極。せ。ぬ。一。致。ひ。詞。述。由。聲。か。ら。る。海。恩。の。俺。親。里。送
ら。せ。ぬ。と。と。諄。返。せ。年。才。倍。方。恰。利。の。情。形。語。言。見。れ。と。連。り。感。を
は。守。延。と。俱。ま。ら。ち。听。く。伴。當。們。三。耳。と。側。く。駭。れ。嘆。ひ。世。亦。信。り。の。心。
女。子。が。奇。し。た。智。慧。才。学。の。ゆ。え。は。所。為。と。稱。け。は。る。

第十六回

不毛山林麓路の義士立聖女と憐む
野井地藏堂の俠客驟雨を避く

小程。稻城守延。世。有。か。免。神。童。女。の。奇。才。の。感。下。且。憐。む。と。甘。を。携。り。左。右。見。て。
適。愛。と。免。這。子。の。怜。惻。心。標。致。三。由。緒。の。武。士。の。女。見。る。と。親。里。を。陸。
奥。る。信。夫。と。ゆ。け。バ。路。の。程。這。里。も。最。も。遙。く。進。退。共。不。便。の。ふ。と。免。と。沉。吟。
あ。つ。更。小。女。の。子。あ。ち。對。ひ。や。信。夫。と。え。と。聽。ね。俺。は。是。伊。勢。の。國。司。北。畠。殿。の。御。
内。人。稻。城。右。膳。守。延。と。喚。做。さ。る。の。の。と。伯。所。の。伊。勢。の。言。と。氣。の。あ。り。今。番。の。使。を。
奉。り。と。免。の。宝。川。へ。赴。た。る。帰。途。の。あ。れ。も。俺。私。の。旅。る。に。阿。女。を。送。り。て。進。退。
その。里。ま。で。適。が。ら。然。ら。と。伴。當。の。所。役。の。あ。れ。分。ち。て。阿。女。を。送。り。て。送。る。と。
人。の。死。を。争。何。の。せ。ん。所。詮。伊。勢。ま。を。ぬ。く。還。り。て。よ。と。主。君。の。稟。一。の。か。合。入。り。と。謀。り。て。
送。り。せ。ぬ。と。も。あ。べ。し。甚。麼。あ。の。美。と。美。引。と。同。信。夫。の。兩。袖。の。顔。を。掩。ふ。又。活。

然と泣く答難く。屢問も答ふ事絶けん涙を斂めて左ても右ても軍身か
 かりぬが親里の天あかくはれども。小宣の御もる。けよの御庇の憑き欲を算計
 りせのひひ。と守延領を却伴當もあつた。行轡の信夫を乗して。その身も
 歩行を先不找き。その宵歌店小着。折御信夫を扶却せ。奴隷并の若黨
 們を旁ひつ賞祿を取せ。信夫を身邊招たけり。御前へ向女が親里の名を傳
 とす。そのまゝ父親の名字を知らず。憶ふも必由緒ある武家の退祿火のそあつら
 具小報よ甚麻を。と問を信夫の言を。宣き。同當言の言を。同當
 さるとの。唱へく実の名を。と。今返さる。俺身
 る。ねが。要る。と。推辞を守延意裏の猜して。信ま。怜れ。女子の
 ぼ。その親の名も。素生の。知。この。隠。故。目今送返
 さ。その身の安危不定。名告。親の。深。念。わ。是。亦庸

子。常。女。の。子。の。及。ぬ。る。と。惜。々。地。感。と。再。問。ま。あ。れ。も。哭。驗。の。書。記。の
 わ。ん。次。と。思。信。夫。少。腰。不。附。る。神。符。裏。を。解。し。て。る。内。中。陸。奥。の。臨。寤。明
 神。上。野。赤。城。明。神。武。藏。の。其。田。八。幡。と。護。身。符。二。百。枚。と。紙。の。包。み。附。帯。の
 ぞ。應。永。上。年。乙。亥。の。秋。七。月。七。日。午。初。刺。生。ま。の。ま。名。寫。し。た。あ。れ。も。亦。の。親。を
 知。る。よ。る。け。れ。故。の。如。く。囊。に。收。め。腰。不。返。し。と。十。日。二。日。と。あ。く。程。不。愛。々。し。ゆ。も。強。増。て
 遂。に。捨。つ。思。ひ。あり。既。し。七。日。目。茶。の。多。氣。の。城。に。歸。着。し。先。信。夫。少。伴。當。を
 謀。宿。所。遣。し。守。延。城。不。登。の。返。命。を。言。わ。せ。休。息。の。暇。を。賜。り。その。宵。宿。所。小
 退。れ。妻。の。老。樹。不。修。と。信。夫。少。と。説。示。し。て。他。の。女。の。子。は。の。あ。れ。今。より。渾。家。儘
 ま。宜。く。勅。り。の。か。と。老。樹。に。愛。懼。び。て。才。を。感。下。厄。を。憐。世。隔。も。多。く。款。待。け
 る。信。夫。少。の。恩。義。を。感。下。主人。夫婦。を。慕。ひ。け。小。程。守。延。信。夫。少。の。趣。致
 の。主。君。不。少。え。の。け。免。許。を。稟。陸。奥。へ。送。り。遣。ま。し。け。と。姑。且。便宜。を。現。ひ。し。

主君北畠親能の改名の事より。守延獨をのまを不考で。面を犯し諫めし。是より不
 測の罪をゆるく。百日許禁錮せられ。身の内を宥られて。身の内を賜りければ。五柳村へ退隱
 せり。遂に又仕官を求め。任れが信夫が陸奥の親を索ひて。遙々と送遣せしめ。ゆゑ
 らる。其の故守延の妻の老樹と商議あり。有一日信夫を召近づけて。最不樂一けの
 示せり。豫め阿女が親を索ねて。故郷へ送り返さんと。思ひし。画餅とて。今浮浪の
 人となり。ここに。陸奥より。陸奥千里三百里。一里の旅。今ゆる人及一か
 かり。又折もある。任るる。過世より。結ひ縁と。思ひし。徐の時を待たぬ。俺
 身會く。阿女二人の左も右も。鞠養ひ。人と成志。その美。おのれよか。
 諭せ。老樹も共侶。いと町寧小慰めて。知らず。俺夫婦の過世。て見子。寤
 寐不樂。一く寄る。年波の後。ささおのれ。心細。年未深。信未た。まら。親
 音。薩埵の利益。授さ。ゆ。汝容止。愛。の。為。梅。才。園。方。你。類

育ち。と。思ひ。子。を。幸。ひ。願。ふ。今。より。俺。們。夫。婦。と。親。と。思。ひ。腹。を。借。さ。実。の。女
 見。と。思。ふ。下。敷。は。就。て。又。想。像。昔。里。の。三。親。達。の。最。痛。う。打。歎。は。在。在。の。
 其。も。胸。苦。一。死。を。自。今。大。人。の。の。れ。ど。猛。可。不。禄。離。る。俺。們。の。不。幸。の。事。
 老。の。與。中。を。幸。さ。る。入。の。薄。命。と。思。ひ。絶。る。な。も。好。子。を。听。分。と。送。代。の。理。り
 切。く。諭。を。詞。の。真。実。心。を。西。馬。と。り。て。馮。心。く。又。悲。一。あ。を。父。増。を。蘇。枋。再。染。の
 紅。涙。袖。の。餘。り。と。苦。一。あ。を。の。堪。ぬ。身。ひ。と。の。秋。か。と。思。ひ。枯。木。用。後。れ。る。極
 子。や。霜。は。痛。ぬ。朝。の。原。の。尾。花。が。裙。の。基。か。く。も。外。小。術。知。る。信。夫。の。才。頭。城
 拾。け。言。と。つ。け。る。死。論。の。有。か。死。を。慚。愧。死。十。期。の。幸。を。信。ふ。の。の。原。比。人。の
 拐。され。る。俵。ふ。と。備。を。救。ひ。遇。せ。る。せ。浮。身。の。宿。の。年。長。て。宿。遊。女。を。せ。せ
 り。め。れ。非。除。故。御。へ。還。され。親。の。會。さ。る。と。の。恨。と。思。ひ。願。ふ。女。見。と
 思。食。て。死。隣。慈。と。無。の。御。杖。の。下。の。寄。す。欲。を。願。の。過。世。は。結。び。家。家。

家母ふととどろきあれ。俺身隔るゆゑの。と。守延老樹。云々と慰めて。只堂の玉殿。花と慈愛むと。苟且も。次の年より守延の。本と取り。おぼろ樹も。亦縫刺の技を教く。苦困る。年年来。あつた。か。おぼろ樹。五を知る。才女。れ。性老実。く。何。二親の教。と。稟。その。智。誇。萬。支。已。城。唐。て。孝順。大。く。つ。り。けれ。髪。の。飴。も。身。の。皮。も。流。行。を。好。ま。驕。奢。を。厭。か。く。養。母。の。助。助。ある。と。ま。う。り。任。而。年。十五。六。あ。び。て。京。中。も。ま。く。ゆ。か。る。養。月。団。花。の。面。影。あ。る。の。比。より。那。這。の。風。流。男。子。們。は。知。り。て。婚。嫁。を。欲。ま。る。の。幾。名。狹。あ。り。けれ。も。守。延。の。婿。と。擇。ま。て。一。切。兼。引。り。一。は。是。より。不。測。の。殃。難。與。り。て。信。夫。之。困。司。の。權。臣。の。け。木。造。木。入。泰。勝。の。大。奪。略。れ。守。延。横。死。て。孤。燈。の。油。竭。ぬ。家。の。老。樹。一。名。処。の。名。是。応。永。八。年。より。今。十九。年。あ。至。ま。て。十二。年。の。り。を。先。々。看。官。示。さ。ん。と。約。め。茲。を。寫。せ。て。是。より。一。と。又。老。樹。が。小。六。に。對。ひ。て。云。云。と。信。夫。が。う。へ。城。

説明を前回を継ぎの。説話煩雑。前後と照し心と屬て。る。宛所。ま。ん。回。話。除。煩。却。説。老。樹。の。小。六。に。對。ひ。て。是。の。の。り。の。要。と。摘。と。綴。系。と。甘。て。説。の。哀。惜。限。る。の。の。涙。を。袖。に。推。拭。ひ。て。亡。夫。の。料。も。信。夫。を。養。ひ。ま。り。の。慈。心。情。由。を。ゆ。う。く。そ。か。る。舊。里。の。二。親。の。名。を。氏。に。知。ね。ば。も。降。誕。辰。の。三。脰。帶。と。包。ま。り。紙。に。寫。し。て。あ。る。う。の。の。忘。れ。を。恨。む。と。告。げ。り。の。り。を。そ。養。兄。の。あ。ん。身。の。名。告。會。ま。る。せ。て。助。助。と。ゆ。う。に。書。せ。ば。奇。遇。深。雪。ぬ。夜。に。贈。り。炭。の。の。り。祈。り。の。ゆ。え。か。る。幸。多。く。又。痛。す。終。那。親。連。の。今。の。世。の。あ。る。人。の。數。を。入。る。の。ゆ。え。と。後。竟。信。夫。が。听。ふ。甚。あ。る。ん。世。の。實。の。父。母。養。ひ。の。父。に。死。天。の。旅。衣。を。な。り。て。着。身。の。身。の。憂。事。の。知。り。よ。り。を。ま。り。身。ひ。と。う。の。苦。不。の。身。の。措。難。で。泣。く。あ。る。ん。不。便。や。と。い。ふ。苦。あ。る。愚。痴。不。疑。胸。の。痞。を。推。難。で。涙。と。共。不。伏。沈。め。の。小。六。を。敬。馬。死。且。尉。が。て。原。來。の。身。の。令。弱。の。俺。女。弟。也。あ。り。よ。り。の。存。命。の。恩。人。十二。年。の。養。育。の。實。の。親。中。も。異。を。ぬ。恩。愛。情。義。感。深。から。相。城。

主の生前の遺教を演のせ、送小本意、稱ふべく、又那信夫が親の猶も、這世の
 在るる報も知して、悦の眉を、用とて、り、又毛、今、その甲斐、人、の、見
 たりける、女、弟、を、仇、合、な、り、て、生、死、の、海、に、漂、充、架、身、の、よ、の、磯、の、易、世、の、轉
 變、を、悲、し、け、れ、あ、れ、と、も、危、窮、の、折、料、を、來、て、六、臂、の、力、を、竭、盡、定、是、造、化、の、配
 劑、是、切、て、の、幸、以、初、刀、自、の、愛、女、の、素、生、を、知、ら、ぬ、時、も、不、寛、苦、と、す、堪、え、れ、ぬ
 某、既、不、兼、愛、の、情、と、越、不、宗、と、く、あ、る、支、向、ひ、信、夫、の、死、身、の、養、女、を、俺、親
 父母、の、女、見、多、う、と、方、僅、詳、に、知、ら、ぬ、怨、初、は、十、倍、多、く、火、中、入、り、刀、も、踏、入、明、目、只
 夙、早、て、言、を、氣、小、赴、件、の、よ、と、訴、て、言、聽、ら、ぬ、も、聽、れ、ぬ、も、信、夫、が、所、在、を、捜、索、せ、ぬ
 會、復、さ、さ、の、已、へ、つ、然、の、三、の、歎、の、ひ、と、敦、圍、ま、る、論、し、て、義、と、を、勇、壯、士、の
 誠、心、と、現、良、茶、の、く、老、樹、の、な、な、胸、開、け、て、又、云、云、と、飲、ひ、の、詞、を、小、六、を、推、林、示、め、其
 頭、の、口、誼、今、ら、う、要、る、と、初、更、多、る、ぬ、其、村、長、許、免、て、歇、店、と、求、む、べ、し、と

老樹の頭を、掉く、丁意、の、宿、所、の、信、夫、の、兄、と、な、ま、れ、親、か、は、通、家、願、の
 這、里、を、天、を、明、く、翌、快、氣、赴、の、然、か、夜、飯、を、ま、わ、ぬ、御、才、は、行、燈、の、燈、を、
 の、こ、で、茶、を、薦、め、た、友、伴、當、徒、然、き、ん、這、方、を、召、せ、ぬ、と、小、六、を、沈、吟、し、
 喪、中、と、嫌、ふ、お、ろ、ろ、老、弱、の、差、あり、と、い、う、單、身、致、安、居、で、と、ま、る、不、忘、憚、之、這、里、の、曉
 本、下、の、冠、丸、男、履、胸、安、く、所、所、あり、女、饌、も、ま、ご、欲、か、ら、ぬ、今、宵、の、多、く、相、別、れ、
 信、夫、と、俱、と、ま、さ、う、折、り、管、待、を、受、く、な、れ、那、首、の、伴、の、小、厮、の、楫、取、度、吉、と、吸、飲、
 たる、腹、心、の、家、僕、の、目、と、の、い、へ、と、ま、老、樹、の、入、ら、ぬ、と、を、馬、心、に、人、多、う、と、言、ふ、給、ふ、
 等、閑、る、け、れ、お、禮、を、允、ら、ぬ、以、後、か、や、も、度、吉、刀、袷、と、存、入、初、く、お、目、か、り、は、る、其、里、を、
 酷、く、端、近、に、這、方、へ、枝、の、の、ま、と、い、う、も、身、と、起、せ、ぬ、度、吉、の、恭、く、老、樹、の、對、ひ、立、た、ぬ、
 諮、ね、不、幸、の、悔、と、陳、ま、さ、る、老、樹、も、亦、歩、み、き、き、助、助、と、言、ふ、折、り、の、鐘、
 鐘、と、初、更、の、鐘、声、を、え、け、る、登、時、小、六、を、身、と、起、來、て、老、樹、と、喚、ひ、別、を、告、ぐ、と、外、面、

伏見傳書二軒卷之三

先とせしを先樹の露垂時と推林あり。本村中亡夫の弟子の親よりあり。村長の宿所あり。
青近道のゆるかなる古筆案内とまてんをともとせぬ。小六も宿をたずり。
そのてねがう。那許の土まわれぬ。身母子と親にわけ。ゆき他人は知らまへく。
ひびくと詞さうく耳を示してカと引提り立出れば。庶吉も亦遠く。辞別り。主従二蓋の
笠と合ふ。従ひゆ。先樹の終末留難。後と契らる。共侶の門をも出。目送りけ。悠而
小六も庶吉をねて。村長許赴。て。咱們の園司も舊縁あり。東園よりあるのえけ。
路と合。言を氣まて。思ひか。初夜過。れ不便。宜計ひぬ。と。村長
あるゆ。守の所親で。る。他所案内を致。及。在下御宿を。
と。姓名。向。疲。勤。馳。容。房。小。迎。入。れ。夕。饌。と。鷹。や。る。管。待。態。の。大。々。と。
小六も辭して。庶吉と。俱。枕。就。す。け。春の夜。短。く。と。向。明。と。せ。程。小六も。
吉と。喚。覚。起。出。て。共。草。飯。と。薦。れ。鳥。の。茂。林。と。離。り。比。村。長。と。辭。別。れ。て。言。を。氣。を。

投ぐいと程。既。下。程。近。郊。原。と。過。る。程。も。あ。れ。三。月。の。天。も。生。憎。小。六。と。
へ。驟。雨。の。忽。地。小。颯。と。降。て。ぐ。小。六。と。宿。せ。家。の。あ。ら。只。身。を。容。る。可。る。十。字。佛。堂。の
あ。り。け。れ。主。僕。齊。十。走。の。入。り。風。三。猛。烈。と。て。悠。々。も。濕。吹。小。濡。ら。さ。る。小。六。と。
堪。も。庶。吉。の。戸。を。閉。と。急。せ。と。門。扇。見。ま。れ。吹。扇。動。れ。推。閉。れ。も。用。け。り。登。時
こ。ろ。小。六。と。四。下。と。相。す。小。六。と。這。堂。内。に。皆。土。席。を。正。面。に。立。像。る。石。の。地。藏。菩。薩。の。の。仏
前。に。布。敷。る。方。四。尺。許。る。一。箇。の。片。石。の。の。け。と。是。究。竟。と。引。起。し。扇。發。は。扉。の。倚
多。相。互。件。の。石。の。蹟。の。方。是。乾。井。を。深。十。丈。も。さ。す。付。麻。何。故。小。這。堂。の。井。あり。と
咳。げ。庶。吉。も。胸。相。て。あ。る。ゆ。か。思。ひ。け。悠。々。折。々。雨。小。趕。れ。て。這。十。字。佛。堂。に。
あ。る。徒。二。名。と。あ。り。て。扉。を。推。て。入。ら。せ。し。此。も。用。ら。れ。甲。乙。俱。に。訴。り。て。生。憎。や
け。未。限。く。戸。の。閉。り。殺。生。せ。ら。る。野。井。地。藏。の。嫌。せ。る。あ。ら。や。と。伴。當。り。
鳴。り。て。現。り。る。理。あり。抑。這。里。の。昔。の。野。中。の。孤。井。の。夜。行。を。説。く。夜。行。を。説。く。夜。行。を。説。く。

落ちて死するの言かり因り地方の農夫們が埋んとてけふも狂可ま病者着せりて
身故であるも妙くねこの這井の霊の祟りた。遂に又これを埋せし。及石を墓にして
落く死したるもの奥に地藏廿七建立して。這堂内は安措をいふ。今この野井の地藏と
稱て鄰御をも知ぬる。佳縁起の石置る不死の言の言火ありて。我生大を
忌嫌る。その故あるる。つ麻げの山獵の何もの御要をいふ。と問へ然る。と點
頭てけの御要をいふ。知れ。和郎の那密支の構つらひるの言今ゆ隠せと
わの俺家の小官人が。橋高奪命のいた。稻城の女兒信夫を。宿野の隠し措
死ぬとも。まの従を威勢とて迫る。本意遂易なる。然る。風味
厚か。他が心。その隨うち靡して賞玩を便直も欲得。其良友を徴
め。山獵との獸あり。その性甚淫多。の。同類る。猿貉狸。兎に至る。を
牝をこれ趕通る。交を。尚遇ぎと敵を。獲され。その情慾の方

る。漫り山の樹を抱たり。幾日麻枝も放れぬ。立枯るもの。を。西戎の。を。房
茶の。故の。價目取貴かり。然ら山獵の血を。酒を。雑て飲。其甚る。貞婦烈
女も。春心の。發起。飽。男と。暮。磁石の鐵を。吸。如。と。有一。醫師の。真
者。小官。次。欽。い。その。山。獵。の。本。邦。の。山。の。早。の。あり。と。少。け。程。遠。く。大。坂。山
國。見。在。ゆ。の。の。は。然。是。由。亦。知。る。と。其。の。素。より。獵。を。好。む。角。弓。と。射。先。の。御
あ。も。と。記。右。衛。門。と。共。侶。は。俺。那。機。密。と。其。示。して。文。作。奴。と。結。果。ける。本。更。の。と。命
お。ろ。櫃。阪。山。と。初。と。其。頭。の。高。峰。と。涉。獵。て。な。那。山。獵。と。射。て。捉。ぬ。賞。禄。を。先
度。の。十。倍。と。何。ま。れ。彼。れ。取。走。と。よ。せ。よ。か。と。町。寧。の。御。付。られ。られ。後。の。と。と。准
備。を。今。朝。未。明。より。出。折。天。と。晴。て。暖。多。い。這。頭。で。雨。の。遇。ん。心。も。つ。雨。衣。と
忘れ。く。來。ぬ。の。俺。の。と。敵。介。和。郎。も。脱。落。け。つ。と。の。敵。介。听。惚。れ。原。來。の。山
獵。の。獲。東。西。次第。で。咱。們。を。御。意。不。預。る。樂。三。あり。勿。論。今。春。の。山。獵。の。然。る。其。小

るものあり。欲りてあつたやうなり。今小解せぬ。稻城がへ他小官人の情人信夫
 と申うが親なるを喪れり。と那未通女が知らぬ必怒きて直の障りある。故
 の致甚麼を。と密めた回へ潜りたる。そをまご知志。疎國の御高木稻城守延が女見を
 會も復さん。と。又氣もあつて訴れぬ。俺老爺と引板屋殿の身威勢の苗を
 證據する。と。訴状と返され。後安は似れぬ。猶大河内へ越訴す。御曹
 司の歎息。京より又妙なる取所あり。と。推もた。御曹司の正室腹を引板屋
 殿と睦か。この。這美よ。御曹司の猶稻城奴。貞の肩の。蠟の塔より堤崩る。悔
 め。然測。この。故守守。延と暗敷。あひ。亦是一事。而用。信夫の山賊の
 所為。ふ。故。故意。の。と。報知。阿女。心。轉。今。俺。從。俺。亦。何
 女。親。の。冤。家。と。索。の。捕。捕。為。小。怨。と。雪。む。俺。も。推。辞。然。從。志。と。口。説。ぬ。孝
 女。の。之。幫。助。よ。と。親。の。仇。を。獲。ら。ん。與。麻。非。せ。ん。と。深。も。計。す。の。い。ん。這。美。俺。

手記右の外の外知らなほ。の。あ。た。た。秘。外。の。洩。と。且。示。さ。う。り。听。る。敵。介。只
 管。甘。心。と。兩。の。垂。存。と。管。ぬ。ま。ま。姑。且。餘。念。り。け。り。然。小。六。と。初。の。庶。吉。と。共
 侶。の。這。思。僕。們。が。密。談。と。听。つ。送。小。目。と。注。し。憤。然。と。怒。小。勝。と。惱。心。と。推。鎮
 め。御。高。木。扉。不。倚。掛。ける。石。と。情。々。地。の。命。を。除。で。る。内。の。言。の。果。る。ま。と。戸。節。は。充。り
 聞。る。息。と。電。と。在。り。程。小。驟。雨。の。朝。と。終。志。の。い。けん。道。徳。經。の。言。行。は。雨。の。歌。と
 雲。斂。り。朝。日。長。雨。小。昇。り。け。り。余。程。外。面。の。兩。個。の。惡。黨。遠。く。濡。る。袂。を。絞
 する。と。敵。介。の。塔。背。を。腹。割。筆。と。揺。抗。れ。又。那。一。個。若。黨。は。杖。を。角。と。白
 推。拭。ひ。天。と。向。上。と。卒。也。と。卒。と。共。侶。不。走。去。ん。と。せ。程。小。六。は。内。の。白
 徒。等。と。喚。林。示。る。声。と。あ。く。戸。の。蹴。用。で。頭。れ。小。六。が。勢。の。宛。旋。風。の。甲。如。勢。は
 足。か。る。敵。介。城。項。髮。梳。と。引。よ。り。研。合。て。二。三。間。粘。泥。の。中。へ。投。着。れ。俱。に。影。を。共
 黨。と。撲。地。と。蹴。仆。と。白。打。の。精。妙。蹴。ら。れ。て。叫。声。と。共。小。筋。手。と。姑。且。息。も。喘。息。

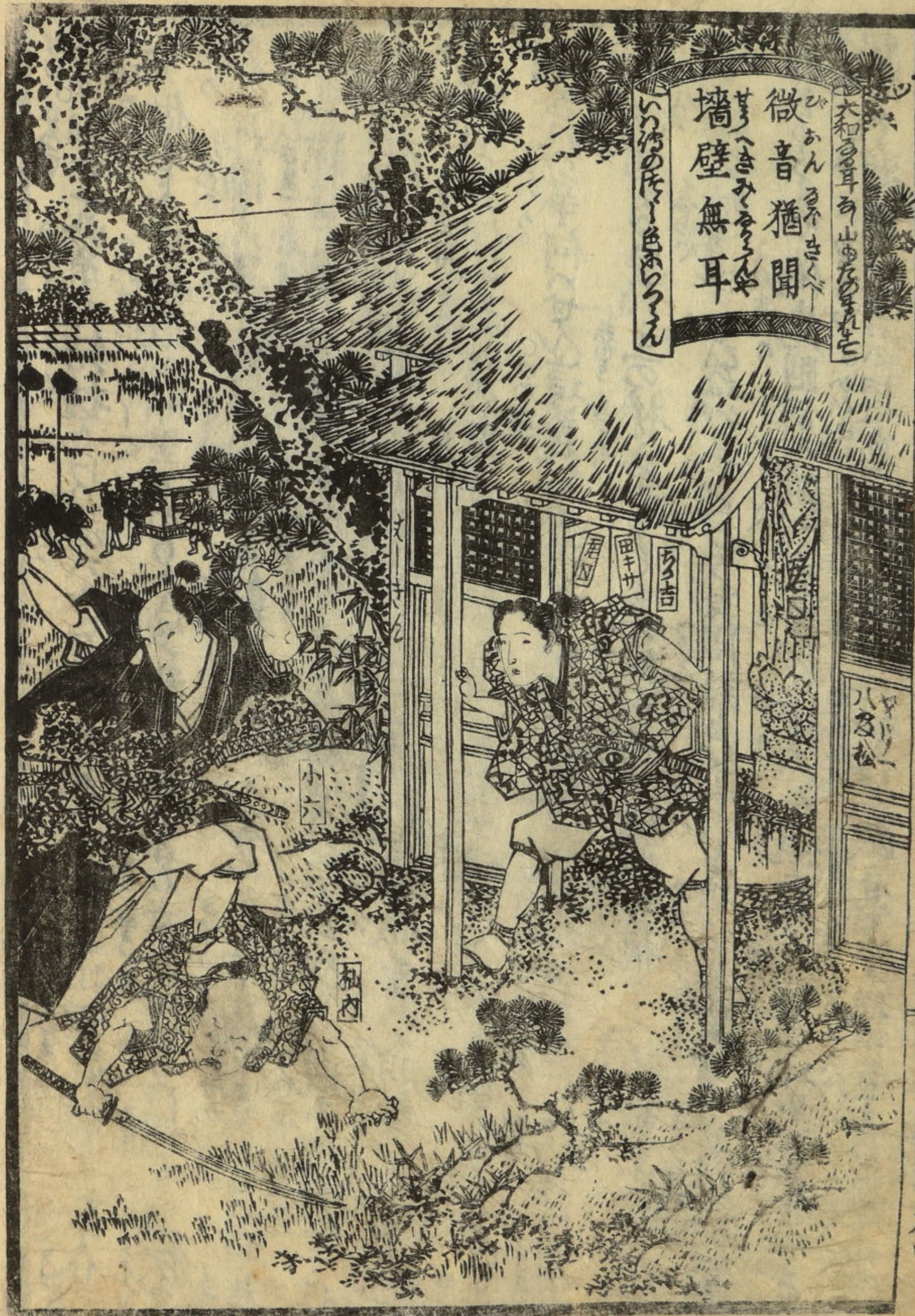
及。そのとらこく。てあつら。てんみ。ひと。と。聴あむる。自然の。心報。俺先。て
 這堂内。不在。し。と。知。及。若。們。が。不。問。談。の。主。の。悪。事。と。具。ふ。ま。れ。ば。紛。れ。も。る。本。造。
 木。二。介。泰。勝。の。使。り。奴。們。を。う。ん。の。身。の。姓。名。偽。々。と。名。出。り。て。毎。々。縛。縛。の。索。を。受。
 一。と。置。懲。せ。共。稍。身。を。起。て。兩。個。の。惡。黨。本。夏。の。怯。と。眼。を。睜。り。て。咄。目。だ。る。青。根。子。
 他。郡。の。知。は。本。州。を。天。飛。ぶ。鳥。も。疾。視。を。預。る。已。們。笑。爺。の。死。威。勢。を。漫。漫。犯。し。て
 後悔。する。初。の。不。意。と。敷。れ。故。其。頭。の。右。の。怪。一。飛。で。聊。不。覺。を。取。れ。も。既。小。密。
 夏。と。竊。す。る。癖。者。を。れ。允。一。か。ら。の。親。念。せ。よ。と。両。声。を。罵。り。左。右。より。刀。を。見。光。り。と
 抜。閃。め。り。と。砍。ん。と。找。む。と。引。外。を。小。六。が。修。煉。の。も。も。出。ま。足。の。乱。ま。り。取。次。る。死。力。と。俱。小。
 打。落。され。て。怯。む。と。蹴。反。一。敷。き。小。六。の。牙。の。苦。と。叫。ぶ。三。度。の。打。播。伏。累。り。と。又。起。ん。
 と。ま。せ。る。口。の。當。下。小。六。の。敵。介。が。腰。の。狭。き。獵。索。を。疾。吉。合。を。れ。と。い。ふ。と。一。條。
 の。若。黨。を。引。起。り。細。き。の。疾。吉。も。あ。る。ゆ。て。亦。一。條。の。索。を。と。て。疾。痛。を。嘔。く。敵。

介。が。両。手。を。緊。く。結。紐。り。け。の。小。六。を。左。見。右。見。と。這。個。奴。隸。を。敵。介。と
 喚。做。せ。り。と。俺。既。の。那。里。の。あ。り。と。知。り。れ。ど。も。若。黨。奴。が。名。の。何。と。の。快。々
 名。生。れ。偽。り。へ。耳。と。懸。た。又。鼻。を。も。刺。入。然。で。も。い。ま。ぬ。名。告。ぶ。と。主。貝。懲。され。て。若
 黨。の。跪。せ。る。戦。と。鳴。平。令。郎。君。允。さ。せ。の。何。地。の。阿。人。の。知。れ。ど。も。既。の。推。量。せ。れ
 去。如。く。在。下。の。木。造。の。家。の。仕。る。若。黨。之。山。勝。杉。内。と。喚。做。ま。り。又。朋。輩。芥。田。與。記
 右。衛。門。と。共。侶。の。泰。勝。の。密。意。と。票。で。良。辰。を。做。され。と。も。俺。の。干。ら。ぬ。主
 命。を。れ。の。争。何。へ。せん。這。義。を。查。一。の。か。と。勸。解。れ。亦。敵。介。も。跪。せ。願。う。て。咱
 們。の。下。司。の。の。る。れ。の。主。の。機。密。を。よ。も。知。る。只。那。信。夫。を。竊。せ。折。人。數。を。如。し。れ
 の。願。を。放。遣。の。ぬ。ね。の。て。く。と。ち。陪。話。の。と。小。六。を。所。々。冷。笑。ひ。と。若。們。何。ぞ
 罪。を。う。ん。や。俺。先。團。司。の。訴。ぐ。那。里。の。沙。汰。の。儘。去。べ。姑。且。這。里。の。事。か。と
 踏。く。然。而。疾。吉。の。趕。立。を。て。そ。の。尽。小。杉。内。と。敵。介。と。堂。内。の。牽。入。れ。て。乾。井。小。



九四

月像美廿三



大和の耳や山のたの耳れき
 微音猶聞
 其へきみきききき
 牆壁無耳
 いのちのたのききききき

竹密傳第二巻五

春王堂印



撲地と蹴落し。那大石と軽々と抬起し。舊の如く井の基盤も。百歩も。
 赤の隈口の。あふ声。喚けり。悠而小六を。度吉の搭。馳せま。行裏。ち被り。
 準備の衣裳。合中。身装。推集。多。氣の城。と。出。後方。
 赤吉。行衣。又。袂。推包。を。背。ち。掛。て。俱。も。百歩。
 前。路。の。方。も。叱。咤。の。声。苛。め。轎。子。か。り。乗。る。六。個。貴。人。陸。續。
 伴。當。約。百。四。五。十。名。對。の。相。室。鎗。二。藍。の。此。糸。切。の。狭。宮。台。傘。建。傘。眉。大。刀。も。尚。已。
 時。る。代。衣。鞋。行。列。正。く。牽。駒。の。後。不。諫。る。伴。鎗。の。枝。花。と。梓。柳。春。の。野。面。と。後。
 と。俱。と。這。方。近。つ。る。事。も。這。ま。人。誰。る。も。あ。次。の。卷。首。解。介。は。と。聽。か。

用卷敬馬奇俠客傳第二集卷之三終



楠道直道直道直
 大楠道直
 大楠道直
 大楠道直

